

山本 アグリ JOURNAL

2025年6月号



山本商事株式会社

本社：会津若松市インター西 29 番地
〒965-0059 TEL (0242) 24-4561 (代) FAX (0242) 25-0956
営業所：郡山市喜久田町卸一丁目 14 番地 1
〒963-8681 TEL (024) 959-6631 (代) FAX (024) 959-6634

No. 3 0 2

令和7肥料年度 秋肥価格

JA全農は令和7肥料年度・秋肥価格(6月～10月)を発表しました。主要品目の価格変動は次の通り、値上げとなりました。

分類		品目	成分（％）	前期比（春肥対比）
単肥	窒素質	尿素（輸入・大粒）	46	＋ 8.0％
		尿素（国産・細粒）	46	－ 2.5％
		硫安（粉）	21	－ 1.0％
		石灰窒素	21	＋ 2.6％
	りん酸質	過石	17	＋ 4.7％
		重焼りん	35	＋ 3.5％
	加里質	塩化加里	60	＋ 3.0％
		けい酸加里	20	＋ 0.9％
複合肥料		高度化成（基準）	15-15-15	＋ 3.3％

※価格変動率は全農の県JA・経済連向け供給価格ベースであり、JA単協・農家向け供給価格の変動率とは一致しません。変動率は令和6肥春肥(令和6年11月～令和7年5月)価格対比。それぞれの原材料の交渉時の状況は下記の通りです。

① 原油・ナフサ

原油価格は、昨年12月のシリア・アサド政権の崩壊や欧州によるロシアからの原油輸出に対する制裁強化、中国の景気刺激対策および欧米での暖房用需要の増加の見通しなどから上昇した。直近では、ウクライナとロシア間で停戦交渉が開始されたことや、米国の景気減速懸念などにより軟化している。国産ナフサ価格は昨年と同水準にある。

② 輸入尿素

中国の輸出規制が継続する中、インドが度重なる入札を実施したことにより、秋口に上昇した。その後も、欧州での天然ガス価格の上昇や、東南アジアでの堅調な需要、米国での春肥に向けた調達が本格化したことにより市況は上昇している。足元では一時軟化したものの、インドの新規入札が発表されたことにより再び上昇に転じている。

③ リン安

中国の輸出規制が継続する中で、昨秋以降、北米・南米において需要が旺盛であったことに加え、国内在庫が低位に推移しているインドでの調達本格化したことにより上昇した。12月以降、中国の輸出規制が強化され実質的な禁輸となったことから、引き続き上昇している。

④ リン鉱石

電気自動車バッテリー用途などの工業用需要が増加していることや、中国において肥料向けとなる高品位品の確保が難しくなっていることから、高い水準で推移している。

⑤ 加里

塩化加里は、東南アジアにおける入札の実施や南米の買い付けの活発化、ベラルーシおよびロシアの大規模な減産発表の影響による需給の引き締めにより上昇している。硫酸加里については、原料である塩化加里の昨秋までの軟調な市況を受けて値下がりしている。

⑥ 外国為替

11月の米国大統領選後に保護政策による利下げ縮小などが意識され円安傾向となり、年末には150円台後半まで進んだ。その後は1月に日銀による利上げがあり、米国の景気減速懸念による長期金利低下などの影響もあり、円高基調に転じた。今回交渉では149円で見通された。

⑦ 海上運賃

フーシ派による紅海での船舶攻撃により、多くの船舶が南アフリカ喜望峰を迂回することに伴う輸送コストの上昇や、北米やブラジルにおける穀物輸出の増加に伴い、市況は上昇している。今後はアジア圏における荷動きの活発化などにより上昇する予想。

⑧ 有機原料

米国産大豆の生産量が過去最高となる見通しからシカゴ大豆相場は軟化し、大豆粕相場も軟化した。菜種油粕も連動して値下げとなった。フェザーミールは、飼料・養魚用需要が旺盛であることから依然相場は高止まりしているものの据え置きで折り込んだ。皮粉は、原産国の韓国や台湾での原皮発生量の落ち込みにより、需給がひっ迫していることから相場が上昇している。

⑨ 製造諸経費

メーカー各社から、電力費や修繕費等の製造コストの上昇に加えて、最低限の賃上げが必要不可欠であるとの主張があった。物流費については、陸上輸送のみならず、船員不足による内航船運賃の上昇などもあり、安定輸送のために価格への反映を求めた。結果として重油などの値下げ要因は最大限折り込んだものの、労務費や物流費、修繕費の上昇を一部認め、製造コストでは電力費、包材費などの上昇を反映し、値上で決着した。

【今春の肥料の動きについて】

米価の高騰も影響してか、農家の皆様からは「少しでも多く収穫したい」という意欲が強く感じられます。業界としても、土壌改良資材やバイオスティミュラント資材の需要が増えてきているように思われます。土壌改良資材の散布適期はすでに過ぎてしまいましたが、増収効果が期待できるバイオスティミュラント資材については、追肥としてのご使用も可能です。ぜひ、当社おすすめの「ベースアップG」や「イールダーワン」をご活用ください。